

- 原著 -

当科における顎関節症治療の臨床的検討

鈴木 政 弘, 河 野 正 司*

新潟大学歯学部附属病院特殊歯科総合治療部
 (部長: 野田 忠 教授)
 新潟大学歯学部歯科補綴学第1講座*
 (主任: 河野正司 教授)

Clinical evaluation of treatments for TMD in our clinic

Masahiro Suzuki, Shoji Kohno*

Division of Polyclinic Intensive Oral Care Unit, Niigata University Dental Hospital
 (Chief: Prof. Tadashi Noda)

*First Department of Prosthetic Dentistry**
 (Chief: Prof. Shoji Kohno)

平成12年11月24日受付 11月24日受理

Key words : temporomandibular disorders(顎関節症), multidisciplinary treatment(集学的治療), clinico-statistical study(臨床統計的研究)

Abstract: When our facility adopted the team approach, in treating temporomandibular disorders, in November 1993, it was with a view to providing the best possible treatments. Even now, however, there is still considerable disagreement among the clinics conducting the initial examinations.

In order to obtain the fundamental data that will be used in determining the best course of treatments, we conducted clinical evaluations of treatments applied to 108 of the 305 new TMD patients registered in our team, from April 1999 to March 2000.

Referrals numbered 64 (59.3%) in toto, the ratio of patients referred from outside and inside our facility being 25.9% and 33.3%, respectively. Treatment was as follows: -pharmacological therapy: 56 patients(52.3%) physical therapy: 48 patients(44.9%) splint therapy: 46 patients(43.0%) prosthetic therapy: 15 patients(13.9%) We referred 30 patients(27.8%) to other clinics for special treatment. 14 of these were referred to rehabilitation clinics, for problems involving the neck and shoulders, while 6 other patients were referred to psychiatry or dental anesthesiology for psychological problems.

As for the length of the treatment-period, 74 patients(68.5%) attended our clinic five or fewer times. 29 patients (26.9%) including those receiving recalls, and those receiving treatments in other clinics, needed treatment for more than six months.

抄録: 新潟大学歯学部附属病院では、平成5年11月より、顎関節症に対しチーム診療体制の取り組みを開始した。初診時の担当科にかかわらず病態に応じた最適な治療の組み合わせを病院として系統的に実施することを目標としたが、初診を担当している口腔外科2科、補綴科2科、特殊歯科総合治療部の中で未だ対応に差のあることが懸念される。

そこで、治療体系構築のための基礎資料を得ることを目的に、平成11年度に新患登録された顎関節症患者305名のうち、特殊歯科総合治療部が診査、治療を行った108名について臨床的検討を行った。

紹介患者は64名(59.3%)で、院外から28名(25.9%)、院内から36名(33.3%)であった。治療内容は、薬物療法が56名(52.3%)、理学療法が48名(44.9%)、スプリント療法が46名(43.0%)、補綴的治療が15名(13.9%)であった。当科より専門治療のため他科を紹介した症例は30名(27.8%)であった。そのうち、頸・肩部の問題で理学療法

科へ紹介した患者が14名(13.1%),心身医学的問題で精神科,歯科麻酔科へ紹介した患者が6名(5.6%)であった。治療期間は,当科での通院回数が5回以下であった患者が74名(68.5%),リコール症例,他科での治療中症例も含めて,6ヶ月以上の治療を要した患者が29名(26.9%)であった。

緒 言

新潟大学歯学部附属病院では,集学的な対応が必要とされる顎関節症に対し,平成5年11月より,特殊歯科総合治療部が主導する形でチーム診療体制の取り組みが開始された。初診時の担当科にかかわらず病態に応じた最適な治療の組み合わせを病院として系統的に実施することを目標とした。その実現に向けて症例検討会などを通じ努力を続けてきているが^{1,4)},初診診査を担当している口腔外科2科,補綴科2科,特殊歯科総合治療部の中で未だ対応に差のあることが懸念される。

そこで,系統だった治療体系構築のための基礎資料を得ることを目的に,特殊歯科総合治療部における顎関節症治療について臨床的検討を行ったので報告する。

調 査 対 象

平成11年度(平成11年4月~平成12年3月)に,いわゆる顎関節症の症状を有していると判断され,紹介あるいは予診室を通じ特殊歯科総合治療部に登録された305名のうち,特殊歯科総合治療部の顎関節症専門医1名が診査,治療を行った108名を対象とした。

結 果

1. 紹介患者

紹介を受けた患者数は64名で全体の59.3%であった。紹介元医療機関の内訳は,当院他診療科36名(33.3%),開業歯科医院20名(18.5%),総合病院歯科8名(7.4%)であった(表1)。顎関節症治療を担当している口腔外

表1 紹介元医療機関

紹介元	患者数(%)
院 内	36 (33.3%)
口腔外科	9 (8.3%)
補綴科	3 (2.8%)
保存科	5 (4.6%)
麻酔科	3 (2.8%)
矯正科	6 (5.6%)
小児歯科	2 (1.9%)
加齢歯科	4 (3.7%)
予防歯科	3 (2.8%)
総合診療室	1 (0.9%)
院 外	28 (25.9%)
開業歯科	20 (18.5%)
病院歯科	8 (7.4%)

科,補綴科から当科への紹介は12名(11.1%)で,その目的は,理学療法の実施,咬合精査および補綴治療による咬合改善が主であった。

2. 性別

男性24名(22.2%),女性84名(77.8%),男女比は1:3.5であった。

3. 年齢

平均年齢は34.8±18.6歳であった。

性別の年齢分布を図1に示す。

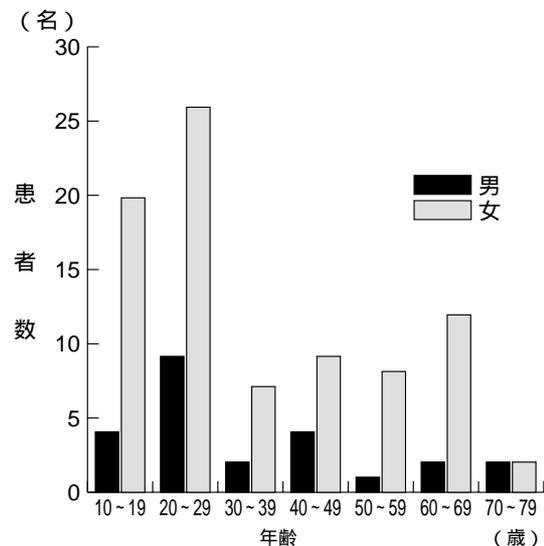


図1 年齢別患者数

4. 主訴

訴えが複数の場合,主訴としての優先順位を判断して一つだけを採用し,主訴とした。

疼痛57名(52.8%),開口障害17名(15.7%),関節雑音12名(11.1%),その他22名(20.4%)の順であった。その他には,咬合違和感8名,開口障害2名,頭痛2名,歯痛2名等が含まれた。

5. 検査

画像検査は,他院,他科で施行されたものも含め,パノラマX線が100名(92.6%),シューラー氏変法が59名(54.6%),眼窩-下顎枝方向撮影が10名(9.3%),CT撮影が21名(19.4%),MRI撮影が3名(2.8%)であった。